

地方 紀行 民鉄

岳南電車株式会社



柔らかな春の霞が
富士山を包み隠す。
富士山に向かって
岳南電車が走る姿は、
写真の中より記憶の中に
きれいに残る。

時 刻は午前8時。岳南電車の始発駅、吉原駅から見る富士山は、春の霞にゆったり沈み、なんともはかなげな姿。岳南電車全10駅から見えるという富士山を写真に撮りたい！と思つて来たけれど、どうやら、その姿が霞の影に消えゆくまでのカウントダウンが始まつているらしい。

富士山は見えるのに写らない

限られた時間の中で富士山を撮るのなら、やっぱり岳南電車と一緒に写したい。鉄道ファンに人気の撮影スポットの一つが、吉原駅と次のジャトコ前駅の間にあるのは確認済み。ならば急いでそのスポットを目標そうと吉原駅を飛び出してみたものの、周囲は工場が立ち並び、線路をたどって行くことができない。

慌てて駅に戻って、駅員さんに道を尋ねると、「ちよつと分りにくいんだよね」「どう言えばいいかなぁ」と、男女2人の駅員さんは、地図を広げて口ごもる。「ジャトコ前から戻るのが分かりやすいかも」と言つけれど、次の電車が発車するまで30分。消えゆく富士山を前に、待つているのは気がでない。「向つこの道を真っ直ぐ行つて、ここをぐるっと回つて行くんだけれど……」。心配そうに説明する駅員さんにお礼を言うのも早々に、再び駅を飛び出す。

「真っ直ぐ行つてぐるっと回る」を実践していたはずが、案の定、真っ直ぐ行き過ぎて後戻り、ぐるっと回り過ぎて逆戻り。行きつ戻りつを繰り返して、それでも何とか目的地に到着。

真つ直ぐ伸びる岳南電車の線路の正面から東京から見えるものより当然ながら遥かに大きな富士山が、確かにまだ見えている。

さっそく、写真のアングルを決めようとカメラを構えて、ファインダーをのぞくと、富士山がない。山頂付近は雲に隠れ始めているとはいえ、肉眼では見えるのに、レンズを通すとつすらとした影のようにしか見えな。電車が来るまで時間一杯、大慌てであれこれカメラを調節して、パチリ。

それにしても、目に見えるのに写らないとは、まるで妖精か、それとも、さすがは神の宿る山と言つべきか。

沿線MAPはグルメMAP?

午前9時を回つたところで、タイムアップ。富士山を写真に撮るのはもう限界。それでも何とか、電車と富士山と一緒に撮れたし、よしとする。それに、春は霞がかかるため、富士山がきれいに見えることは稀だと聞いていたので、「富士山以外の沿線おススメスポット」も、岳南電車の方にしつかり聞いてある。富士山にこそ雲や霞がかかっているけれど、暑くも寒くもない天気は、絶好の散策日より。おススメは湧水公園に、富士山からの湧き水が汲めるわきみず寺(法雲寺)……。吉原駅でもらつた「岳南電車沿線MAP」で場所を確認すると、湧水公園は岳南原田駅から岳南富士岡駅間の散策コースの途中に、わきみず寺は本吉原の駅近くにあるらしい。そのわきみず寺のやや左に視線をずらすと飛び込んで



沿線散策におススメの一日フリーキップは、平日(720円)よりも土日祝日(410円)の方がお得。

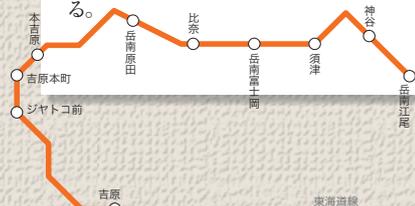


気温が上がるにつれて霞は濃くなる。富士山を写真に撮るには、早朝がおススメ。

岳南電車

【がくなんでんしゃ】

全長9.2kmを約20分で走る生活路線。JRと連絡する吉原駅から岳南江尾駅まで、全10駅のすべてから富士山を見ることができ





富士山撮影位置を示すイラストは全駅に。本来なら、そこから富士山が見える。



右左：富士市内には富士山からの湧き水が随所から湧き出ている。中央：フワフワのコッペパンは、大きいのにあつという間に食べられる。

くるのは「コッペパン」の文字と写真。富士山撮影のため、早朝、朝食抜きで出発したことを思い出し、もう頭の中はコッペパンで一杯。兎にも角にもコッペパンを目指す。

富士山の撮影ポイントを探していたときは、あれほど道に迷ったというのに、空腹のなせる技が、今度は迷いもせずにお店に到着。さつそくお目当てのコッペパンを購入し、そのまま歩いて、わきみず寺へ。このお寺の湧き水で、お米を炊いたりコーヒをいれたりする地元の方も多く、休日には水汲みの順番待ちができることもあるというけれど、幸い本日の先客は一人。ほとんど待つこともなく、ペットボトルに水を汲む。

コッペパンと水を持って、湧水公園へ向かう…までは到底我慢ができません、近くに見つけた公園で、かじりつく。軟らかくほの甘いきつね色のコッペパンは、癖のないおいしい水とともに、瞬く間に胃袋の中へ。腹ごしらえを終え、よつやく腹ごなしの散策へ出発。

富士山のお膝元を歩く

散策コースの出発点、岳南原田駅まで、本吉原駅から一駅分だけ電車に乗ると、赤い電車の車内には、「岳南電車沿線MAP」を持った熟年世代の団体客。同じ散策コースを巡るのかなと思っただけ、どうやらお目当ては数駅先の須津駅を出発点に溪谷や滝を巡るコースのようで、岳南原田駅では下車せず、そのまま乗っていく。

一人降り立った岳南原田駅のホームには、

富士山が見える場所に印がある。一応、印の上に立ってみたけれど、富士山はもうほとんど見えない。まあしょうがないと歩き出した住宅街は、本来ならば正面に、横に、後ろに富士山が見えていそうな道ばかりで、「富士山のお膝元」が実感できる。

MAPに従い歩くうち、ずいぶん坂を上がってきたようで、気付けば小高い丘の上。富士市は田子の浦や駿河湾に面した海沿いの町であるのに、製紙業が盛んということで、眼下に広がる町並みには煙突が目立つ。

静かな住宅地を歩きつつ、もしかして迷ったかなと焦り始めたころ、湧水公園を発見。

田子の浦まで気の向くままに

湧水公園があるのは、医王寺というお寺の前。お寺への参道も兼ねているように見える。きれいに整備された水辺を覗き込むと、驚くほどりっぱな黒い鯉が群をなす。遊具や広い遊戯スペースのある公園ではないけれど、ベンチで一休みする人や鯉に餌を撒く親子が行き交い、適度な人の気配が心地よい。

ぼんやりと人を眺め、日射しにきらめく水辺を眺め。さて、これからどうしよう。富士山は見えないけれど、せっかくだから万葉歌人のように「田子の浦に(ゆ)うちいでて」みるのもいいかもしれない。それなら、もう一度、わきみず寺に行って水を補充して、ついでにおやつ用のパンも買って行きたい。

足の向くまま気の向くまま。のんびり、ゆっくり、贅沢な一日。



「赤がえる」と呼ばれる岳南電車の赤い電車は鉄道ファンに人気。



公園はもちろん、町を流れる川や住宅脇の水路の水も、驚くほどの透明度。



製紙工場が町のいたるところに点在。高台から見ると、煙突の数でその多さが分かる。